こまざわ経済通信

発　行
駒澤大学経済学部
同　窓　会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1－23－1

学部長あいさつ

「今どきの大学事情」

代田　純（教授、金融論担当、2002年就任）

駒澤大学は7～9月に、のべ5回にわたり、オープンキャンパスを実施した。7月16日（日）、17日（海の日）、8月5日（土）、6日（日）、9月10日（日）である。そもそもオープンキャンパスとは、高校生（受験生）に対し、大学キャンパスをオープンし、各学部の講義内容や、大学生活に触れてもらう企画である。ここ10年ほどで、各大学が競って夏季期間にオープンキャンパスを開催している。

この背景に、18歳人口の減少があることは言うまでもない。18歳人口は平成4年度には205万人であったが、平成20年度には124万人まで減少し、平成29年度には120万人に減少している。平成4年度に比べ、平成29年度には約40％減少している。18歳人口の減少は、大学にとって、受験者や入学者の減少につながる可能性があり、どの大学もオープンキャンパス等の開催で、高校生に対し、自校を広報している。

駒澤大学では今年からオープンキャンパスで事前予約制を導入した。オープンキャンパスに来場する前に、高校生や父母はパソコンやスマホから予約することとなった。事前予約制の導入もあり、来場者数や来場者の動向がかなり把握できるようになっている。駒澤大学のオープンキャンパスには、全日程、1日あたり、数千人の来場者があった。7～8月の日程は猛暑のなかでの開催であり、1日3千～4千の来場者が来学してくれたことに感謝したい。また協力学生（オープンキャンパスに協力する駒大生）も、駒澤大学のロゴが入ったTシャツを着て、汗だくになりながら、高校生を案内してくれた。

今年のオープンキャンパスで、父母の来場者数が増加したことは特徴のひとつであろう。また経済学部の企画会場でも、父母だけで参加されている光景も見られた。経済学部では個別相談コーナーを設けているが、個別相談においても、高校生本人よりも、父母が熱心に質問されるケースが多かった印象がある。大学を取り巻く環境は、少子化のなかで確実に変わっている。

「第8回経済学部同窓会総会」と「学生シンポジウム」にご参加を

本年度は、経済学部同窓会総会と学生シンポジウムを同日に開催いたします。
総会にて同窓生との親睦を深め、シンポジウムにて現役生の日頃の研究成果をご覧ください。
開催日：11月19日（日）10時～ 総会、13時～ 学生シンポジウム

※詳細は、本誌2頁をご覧ください。

「第8回経済学部同窓会総会」と「学生シンポジウム」のご案内

経済学部同窓会総会が11月19日（日）に深沢キャンパスで開催されます。

3年に一度の総会では今期の総括と次期の活動方針が審議されます。同窓会の発展のため活発なご議論をお願い致します。商経学部・経済学部の卒業生なら同窓会員でない方もオブザーバーとして自由に参加できます。お誘いあわせのうえ、多数の皆さまのご参加をお願い致します。

また、今年は卒業生と在校生の接点をつくるために、「学生シンポジウム」への参加を企画しました。シンポジウムは学生が日頃のゼミナールでの研究成果を発表し、学内だけでなく、卒業生や学外者にも公開する全学的な催しです。経済学部を中心に他学部からも多数の学生が参加し、地域活性化、格差、労働問題、企業と労働者、日本の政策・政治・税金問題、グローバル・ガバナンス、食のあり方と資源活用、消費者行動、などテーマごとの会場に分かれて議論します。いま学生たちはどのような経済問題に関心をもち、どのように勉学しているのか、卒業生の皆さまに知っていただく絶好の機会となります。シンポジウムに参加して、未来を担う学生たちにエールを送ろうではありませんか。

開催日：平成29年11月19日（日）

経済学部同窓会総会
時間：10時00分～
会場：駒澤大学深沢キャンパス　講義室2-1（2階）

学生シンポジウム
受付開始：11時～
開 会 式：12時30分～
発　　表：13時～
会場：駒澤大学駒沢キャンパス　9号館各教室
（詳細は、総会の時間にお知らせします）

懇親会
時間：17時40分～19時
会場：学生食堂
◎シンポジウム参加学生と合同の懇親会です。

本年の「ホームカミングデー」は11月4日（土）ですのでご注意ください。

研究室訪問シリーズ

井上　智洋
（准教授、マクロ経済学・
経済政策担当、2015年就任）

私の本業はマクロ経済学ですが、学生時代には人工知能（AI）について研究していました。そのため、2013年くらいから副業として、経済学者の立場からAIについて論じるようになりまして、2016年の7月『人工知能と経済の未来』という本を出版しました。AIが人々の仕事を奪うかとか経済成長を促すかといった問題を扱っています。

そのすぐ後、11月には『ヘリコプターマネー』という本も出版しました。こちらは、マクロ経済学に関する本で、日本銀行のような中央銀行がヘリコプターで空からお金を撒くかのように、直接的に世の中に出回るお金の量を増やしたらどうなるかといった思考実験について論じています。

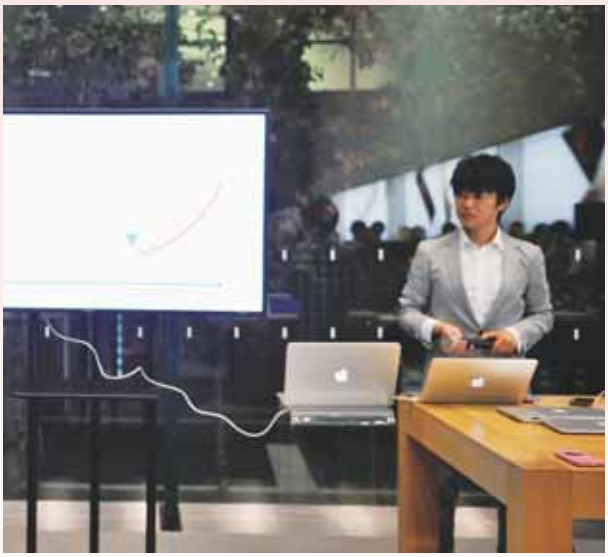
駒澤大学には2015年度に着任しまして、「経済政策」と「マクロ経済学」を担当しています。ゼミのテーマは「経済問題と経済政策」で、学生が自ら問題を発見し解決案を講じる能力を伸ばしたいと思っております。AIには特に問題を発見することが困難です。学生には、人間にしかできない能力を身に付け、AIに奪われないような仕事に就いて欲しいです。

ちなみに、多くの学生が関心を持っているのは「地域再生」「少子高齢化」「格差問題」の三つです。他に、「ブラック企業や長時間労働といった雇用問題」「年金・生活保護のような社会保障制度」なども研究テーマとして好まれます。こういった問題は身近だったり、イメージしやすかったりするからでしょう。私の影響で、AIが経済に与える影響についても興味を持つ学生が増えてきています。

ただ、私の専門であるマクロ経済学はあまり人気がないですね。数学を使って難しそうだという印象があるからかもしれませんし、学生の間は景気動向について考える機会が少ないからかもしれません。いずれにしても、マクロ経済学の魅力を学生に伝えることが今後の課題です。

ゼミでは、グループワークとプレゼンテーションも重視しております。コミュニケーション能力を身に付けて、就職活動の時や社会に出た時に役立てて欲しいからです。年に2回他のゼミと合同で行っている「インゼミ」では、グループ毎に発表してその出来を競っています。

今年は特にうちのゼミ生の活躍が目立ちました。
これからも有為な人材を輩出して参りたいと思います。
引き続きどうぞよろしくお願いします。



研究室訪問シリーズ

王　穎琳
（専任講師、中国経済論担当、2016年就任）

2016年４月に着任しました王穎琳です。中国経済論を担当しています。「中国なしで生活できるか？」という問いに答えるためには、中国経済のみならず、世界経済における中国経済の役割も考えなければなりません。ゼミでは２年生の研究テーマは「転換期の中国経済」であり、日本との経済関係を念頭に置き、転換期の中国経済の現状と課題を検討しています。３年生の研究テーマは「中国における企業経営」であり、多国籍企業のマーケティング戦略、経営管理、生産管理、労務管理、外資政策に焦点をあて、中国に進出する日本企業や中国企業を事例として取り上げ、中国における日系企業の現地化と中国企業の経営戦略を明らかにしています。

授業では、中国経済はどのような経路を経て、現在のようなシステムを形成し、そのシステムがいかに機能しているかを分かりやすく解説するとともに、統計データを丁寧に読み、マクロレベルを中心に中国経済の分析を行っています。

中国経済は転換期に向かっています。「製造大国」から「製造強国」へ転換できるか、持続的発展が可能かどうかなど、構造的問題が問われています。こうした背景に、中核製造技術レベルの向上、特許のある製品の開発を目指し、中国政府がイノベーションの大衆化を提起したことがあります。それは挙国体制の新しい起業、ソーシャル・イノベーション（衆創）体制の構築です。

そこで、私は現在、地道な現地調査を通じて、中国におけるイノベーションと起業のエコシステムの構築、メイカーズの起業やスタートアップ企業の育成について検討しています。よろしくお願いします。

ゼミ紹介

小栗ゼミ

小　栗　崇　資　（教授、財務会計論担当、2000年就任）

毎回の応募がかなり多いので、比較的人気のあるゼミではないかと自賛している。企業会計の学習をベースに財務諸表の「作る力」と「読む力」を養成するのがゼミの目標である。そのために、本ゼミとサブゼミを毎週行っている。

「作る力」を付けるために、ゼミ生には簿記資格や各種の検定を受けるためのトレーニングをしている。応募が多いのは、資格を取りたいという学生の願望にかなっているからであろう。中には、公認会計士や税理士をめざすゼミ生もおり、これまで合計で10数名の合格者が出ている。簿記とは違う「読む力」も重要であり、社会人になってから役立つのはこちらかもしれない。ゼミ生には企業を分析する力を付けてほしいと願っているが、そのためには実は会計以外の様々な経済・社会問題についての学習が不可欠である。基礎学習とともにいろいろなトピックスについて勉強するようにしているが、ゼミ生の関心を引き出すのはなかなか大変である。

ゼミでは、毎年、東京証券取引所や日本銀行の見学を行ったり、企業見学に出かけてもいる。夏と春には合宿も行い、勉強とともにゼミ生同士の交流も深めるようにしている。ゼミ対抗のソフトボール大会参加とあわせて、近年は、オータムフェスティバルに模擬店を出店しており、ゼミの一大イベントになってきている。

毎年、3年生の後半にはゼミ論文を書かせており、それを集約して年度末には『OGURIゼミ論集』を刊行している。それまでのゼミ活動の記録や各人のプロフィールを写真入りで載せているので、良い記念になっているであろう。

就職も順調で、銀行・金融関係やメーカー、不動産、外資の大手、ANAや地方公務員、国税専門官などかなりレベルの高い企業や機関に就職している。

皆からは「オグオグ」などと呼ばれ、タメ口で話しかけられる関係が出来てしまったが、それも学生との人間的な交流の形ではないかと自分に言い聞かせている。どの程度、学生を育てることができているか自信はないが、卒業後に集まるOB会でゼミ生が活躍しているのを見ると、教員になって良かったという思いが湧いてくる次第である。

ゼミ紹介

溝手ゼミ

溝　手　芳　計　（教授、農業政策担当、2002年就任）

ゼミでは「食・農・環境と経済」をテーマとしています。

私の専門が「農業政策」という具体的な問題を対象とする分野であることを踏まえて、ゼミでは、理論の根っこにある現実や課題をしっかり押さえたうえで、経済学的な議論に入ることを大切にしています。

20世紀後半には、農業は斜陽産業と見られ、農業経済学はマイナー分野化していきました。ところが、世紀の変わり目辺りから、新たな目が注がれ始めました。一つには、農業や食品産業における技術革新やグローバル化にともない、食の安全・安心を危惧する声が高まったことです。今一つは、地球温暖化問題が重大問題化するとともに、農業が環境に及ぼす影響ついてもプラスの側面だけでなくマイナスの効果が取り上げられるようになりました。ゼミでは、これらの変わりゆく食・農・環境の実状を踏まえることを重視しつつ、その政治経済学的側面に焦点を合わせて学習しています。

演習Ⅰ（２年生向け）では、年間テーマとして「食料問題」をかかげます。演習Ⅱ（３年生向け）では、学生の希望を踏まえて年間テーマを決めて学習していきます。当初、「食」関連や「環境」関連の希望がほとんどで、「農業」関連のテーマになることはないだろうと思っていたのですが、現実には、「農業」関連のテーマに落ち着くこともあります。

ゼミ生の大半は非農家出身ですが、家業が農業だ、祖父母が農業をやっている、といった学生もいます。そのせいか、就職先に農協系統の事業体を選ぶ学生も他ゼミに比べてやや多いのではないかと思います。

以前、卒業研究は、ワープロ印刷のものをファイルに綴じて執筆者に渡していました。2015年度に、在外研究の留守中に演習Ⅲ（４年生）ゼミの指導を清水卓先生にお願いしたおり、冊子印刷していただいた。これをきっかけに、論集の印刷・製本を印刷センターに依頼しはじめました。それまでのものに比べて格段の出来栄えになるので、これからも続けていきたいと考えています。

経済学部同窓会長賞の受賞者

平成28年度卒業式は、本年3月23日におこなわれました。経済学科381名、商学科251名、現代応用経済学科134名、合計766名の卒業生が誕生しました。

経済学部同窓会は，在学中勉学に励み，人物にも優れた9名に賞状と記念品（万年筆）を授与しました。受賞の誇りと自信をもって，今後は社会人として活躍されることを期待しています。

経済学科：	千羽　敏史	青木　さゆり	青木　大地
商学科　：	古松　開士	武井　若菜	谷口　佑也
現代応用経済学科：	島田　真琴	石井　　茜	大黒　愛子

商学科：古松 開士 さん

現代応用経済学科：石井 茜 さん

現代応用経済学科：大黒 愛子 さん

現代応用経済学科：島田 真琴 さん

経済学科：千羽 敏史 さん

平成28年度 駒澤大学経済学部学生奨学論文

平成28年度で第5回を迎えた「学生奨学論文」の審査結果は下記の通りです。特選受賞論文は、経済学部ホームページにて全文を読むことができます。ぜひ日頃の学生の研究成果をご覧ください。

【審査結果】　※応募総数24編

1．特選（1編）　千羽敏史「自殺と自殺対策 ～ベクトル自己回帰による分析～」

2．入選　該当者なし

3．佳作（10編）

①三谷正義・堀井瞭・渡邉泰州「くまもとMICEによる観光と地域の振興―交通運輸でなす九州全体の波及効果とモデルの普遍性―」

②和田惇「日本のオートバイ産業―過当競争から世界制覇へ―」

③白井大豊「1970 年以降のシンガポールの工業化と住宅政策―ジュロン工業団地を中心に―」

④栗林凛・伊勢恵莉佳・徳永楓・鈴木佑大「地方経済の衰退とアベノミクス」

⑤諏訪田真先・野沢茂浩・福田凪海・大森夏帆「長時間労働・非正規雇用の拡大と『働き方改革』」

⑥麻生力・中村慎吾「商店街におけるアーケード撤去の諸問題～いろは会商店街からみるアーケード撤去の実態～」

⑦尾関佑太・室伏大祐「金融グローバル化のなかで新興国が直面する問題―通貨危機と政策対応―」

⑧吉村拓朗・渡邊拓視・城田明衣華・山崎涼介「資本主義の成熟と現代の労働―『資本論』の資本主義分析に基づいて―」

⑨石塚宏樹・船田翔太「中山間地域における林業従事者によるコミュニティビジネスの創出モデル」

⑩高橋伯安「現代インドネシアにおける土地問題の歴史的起源―オランダ植民地期から1960 年代の土地制度改革まで―」

駒澤大学経済学部現代応用経済学科10周年記念シンポジウムの開催について

日　程　2018 年 3 月 18 日（日）13 時～ 17 時
場　所　駒澤大学深沢キャンパスアカデミーホール（東京都世田谷区深沢 6-8-18）

駒澤大学経済学部現代応用経済学科は、2017 年 4 月に設立 10 周年を迎えました。それを記念して 10 周年記念シンポジウムを開催いたします。

シンポジウム第Ⅰ部では、設立時に学科主任を務めた吉田敬一教授が「グローバル・ナショナル・ローカル」を題材に基調講演を行い、それを踏まえて、保坂展人さん（世田谷区長）、桑島俊彦さん（世田谷区商店街連合会会長）、神保和彦さん（昭和信用金庫理事長）をはじめとした各産業を代表する方々にパネル討論を行っていただきます。

シンポジウム第Ⅱ部では、面白法人カヤックの柳澤大輔さんを講師に迎え、世田谷の市民活動を代表する方々をファシリテータに、現代応用経済学科の現役学生・卒業生、地域の方々とともに「世田谷地域の活性化」について全員参加型のワークショップを開催します。

ぜひ、多くの方々に本シンポジウムにご参集いただきますよう、お願い申し上げます。

※参加費無料、参加申込不必要

同窓会事務局からのお知らせ

同窓会組織の強化にご協力ください

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで「経済学部同窓会」に加入していない方がおられましたらご紹介ください。未加入の方に事務局から入会案内をお送りします。

「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報の充実のため原稿を募集しています。
積極的なご投稿をお願いいたします。

・論　題：自由
・字　数：800 字以内
・送付先：駒澤大学経済学部同窓会事務局 (下記)
　原稿の採否は事務局にご一任ください。

役員を募集しています

ボランティアで同窓会の仕事をしていただける方を募集しています。
軽い仕事なのでご負担になることはありません。
仲間と楽しみながら，同窓会と経済学部の発展ために貢献できます。
有志の方は事務局までご連絡ください。

経済学部同窓会事務局（経済事務室内）
〒154－8525　東京都世田谷区駒沢１－２３－１
電話：０３－３４１８－９３４３